

会計報告

遅ればせながら、2011年6月結成から2年間の会計監査が終わりました。皆様へのご報告が遅れたことお詫びいたします。

これらに関しては、2013年9月21日に、川原・山田両監事により会計監査を受けましたことも同時にご報告いたします。

また、先にお知らせをしておりますとおり2013年4月8日よりNPO法人として活動しております。こちらに関しては年度末(5月31日)で決算をし、当初の会員で総会を経て札幌市に報告を提出しております。

巷ではもうすっかり福島原発問題は終わったこと(終わったことにして)生活をしている人がほとんどで、総理大臣までもが「コントロールされている」とよその国へ行って豪語したことは記憶に新しい呆れたニュースでした。ご覧のとおりカンパ・寄付金も事故当初に比べると7割弱と減っていることがわかります。

私たちは、一枚一枚の振込用紙を通して、寄付及びカンパをくださる皆様のことを思いまします。同じ気持ちで憤っている仲間がいる、私たちの活動を支えてくださっている仲間がいる。世の中捨てたもんじゃない! といつもたくさんの元気をいただいています。

今年度からは保養所の建設プロジェクトも動き出

〈2011年度〉

収入		支出	
カンパ・寄付収入	8,253,845	宿泊関連	4,242,194
助成金	4,000,000	旅費交通費	1,768,445
参加費	509,250	通信費	514,488
雑収入	32,714	事務運営費	731,584
計	12,795,809	計	7,256,711
2011年度繰越金		5,539,098	

〈2012年度〉

収入		支出	
前年度繰越金	5,539,098		
カンパ・寄付収入	5,602,908	宿泊関連	3,539,463
助成金	1,000,000	旅費交通費	2,754,802
参加費	855,000	通信費	255,747
雑収入	148,055	事務運営費	379,642
計	13,415,061	計	6,929,654
2012年度繰越金		6,215,407	

しています。

重ねてのカンパ・寄付のお願いになりますが、お友達、お知り合い等輪を広げてくださいをお願いいたします。

理事 津田祥子

ドイツの市民活動とつながっていきこう

2012年9月、当会矢内理事長など4名が、ミュンヘン、シュタットベルゲン、ベルリンを訪問しミュンヘン市議会、日本人会、独日平和フォーラムベルリン、ドイツ放射線防護協会、ドイツ環境保護連盟(BUND)などつながりができました。なかでも、ミュンヘン市議会議員であるモニカ・レナーさんは、福島の子どもたちを守ろうと積極的に活動してくださっています。10月末、そのレナー議員とBUNDのマーティン・ヘンゼルさんが札幌市の招きで来札しました。

当会では、毎回の保養に協力いただいている後志管内・蘭越町をご案内しました。ヒルトンニセコピレッジでは野外活動の場や、バーベキューコーナー

を。蘭越高校では、子どもたちと遊ぶボランティアに参加してくれている高校生と交流。町では副町長と懇談、など保養の現場を実感していただきました。ミュンヘン市では何ができるか、モニカさんは問いかけます。今は、子どもたちへの募金をミュンヘン市のホームページを活用して募っていただいておりますが、私は、倫理は経済に優先するという哲学に裏打ちされ脱原発を決定したことや、いまだに、南ドイツの森ではきのこやいのしし肉からセシウムが検出されていることなども含めて、ドイツの現状をさらに広く日本人に伝えてほしいと思いました。これからもつながって、子どもたちを守っていきこうとハグしてお別れしました。

副理事長 山口たか

4

* NPO法人 福島の子どもたちを守る会・北海道 * 〒060-0808 札幌市北区北8条西3丁目 札幌市市民活動サポートセンター 事務アース2 携帯電話 / 090-6990-5447 メール / fkmamoru@gmail.com URL / http://fukushimakids.org/



共に生きる

NPO法人
福島の子どもたちを守る会・北海道

《ニューズレター》2013～14年 冬版



支援は新たな段階へ

北海道に、福島の子どもたちの保養所をつくらう!

2014年3月11日で東日本大震災・東京電力福島第一原子力発電所の事故から3年です。

福島ではいまだ10数万人の人が住みなれた地域を離れ避難生活を余儀なくされています。一方、原発の廃炉作業は困難を極め、4号機の使用済み燃料の取り出し作業や、海洋に溢れる放射性物質に汚染された水に、多くの人々が不安を抱えています。

事故当初は、大きな支援がありました。しかし時間の経過とともに人々の記憶のなかで震災と原発事故は風化しつつあります。事故は収束していませんにも係らずです。当会は、震災で被災された方たちのなかでも原発事故に遭遇した福島の方たちの夏休みなど長期休暇での保養の受け入れに取り組んできました。しかし、このような状況だからこそ、今後長期にわたる支援活動



活動を確認するための新たな段階にきています。3年を経て感じています。福島の方たちが、希望

する時に、希望する期間だけ保養ができる場が必要です。6月3日、沖縄久米島の福島の子どもたち常設の保養所「球美の郷」理事長・ジャーナリスト広河隆一さんを講師にお招きし、記念講演会を行い「北海道に保養所」プロジェクトをスタートさせました。

現在、保養所へのご寄付の達成率は、目標の2000万円まで65%ほどとなっています。貴重なご遺産を寄付して下さる方、社員の皆さまのカンパを継続して下さる企業の皆さま、高校の生徒会、ライブや演劇の収益を寄付して下さるミュージシャンや劇団の方々、その他、多くの皆様の、愛と汗があふれた、募金です。本当にありがとうございます。作家の小田実さんが、阪神大震災の時、被災者の財産への補償を認めなかった政府の対応に憤って「この国は人間の国か!」と言いました。当会もこの国が「人間の国」となるよう尽力いたします。保養所をつくるには、まだ、あとひと山のがんばりが必要です。どうぞご支援の輪を広げてくださいますようお願い申し上げます。

副理事長 山口たか

1

2013年

夏保養報告

「福島子どもたちを守る会」の働きについて

福島子どもたちが元気に育ってほしいと思います。そして自分のことだけでなく、周りの人たちのことにも気を配るような人になってほしいと希望します。この会の働きが、子どもたちがそんな風になるための手助けになれば良いと願っています。日本の将来はそのような子どもたちにかかっていると言えるでしょうから。

副理事長 矢口 以文



夏休み保養では、恵庭市余湖農園で子どもたちと交流をしました



いっぱい外で遊んだよ!

今回の保養は12家族37名の親子が保養に参加され、保養の前半は蘭越、蘭島で過ごしました。あいにく雨勝ちの日が続きましたが、子どもたちは晴れ間をみては、元気いっぱい外遊びをしていました。

蘭越では、ニセコの山々を望む「ふれあいの郷とみおか」で、5棟のコテージに分かれて宿泊しました。また、希望する子どもたちは、蘭越高校のボランティアのお兄さん、お姉さんと一緒にテントで楽しい一夜を過ごしました。

食事は、昼食夕食をスタッフが用意をし、朝食は各棟にてお母さんたちに作って頂きました。子どもの年齢によって生活のサイクル、特に乳幼児の起床



2

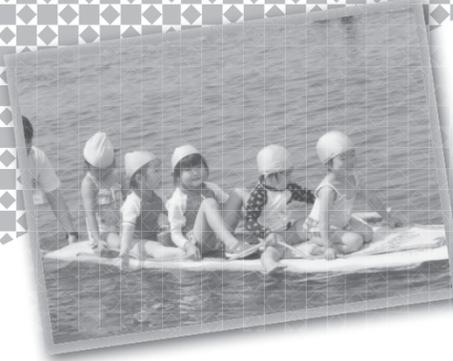
時間に差があるために考えた初めての試みでしたが、「朝食のみ自炊」は概ね好評だったと思います。

蘭越での行事は、パームホール(蘭越のNPO法人が運営する私設の音楽ホール。森の中にあるすてきなホールです)でのチェリスト・土田英順氏のコンサート、歓迎夕食会、ヒルトンニセコヴィレッジでの野外バーベキュー、野外遊びや温泉入浴等と、楽しい時間を過ごしました。また、「人形劇場やまびこ座」の元館長現札幌エルプラザ公共4施設館長の岩崎氏の指導のもと、子どもたちは竹とんぼや竹笛を手作りして、とても楽しんで遊んでいました。

蘭島では、太陽グループ所有の海辺のログハウスを提供していただき、海水浴やカヌー遊び、バーベキューやスイカ割りを満喫しました。この間、グループのボランティアの方々が大勢参加してくださり子どもたちが安全に過ごすことができるよう配慮してくださいました。

大勢の方々のご協力により、蘭越、蘭島の保養は無事終えることができました。

保養に参加された親子は、ニセコの大自然の中で過ごすうちに、徐々に笑顔が増し表情が明るくなったように思います。遠く離れた北海道の地で、葉っぱや小石を喜々として拾い、夢中になって虫を捕まえる子どもたちの姿に安堵しつつも、この当たり前



の外遊びが子どもたちの非日常なのだと思うと、悔しさと悲しみで胸がいっぱいになります。子どもならば誰もが経験して然るべき安心して自然に触れられる「時」を、少しでも多く用意することができるよう、皆で力を合わせてこれからも活動を続けてまいります。

理事 小林俊子

札幌の夏を満喫しました

札幌の保養は、天候に恵まれた8日間でした。そして、誰一人、病院にかかることなく、元気いっぱい過ごせたことが何よりでした。

蘭島からの移動日は、北海道新聞社福祉財団から「サッポロビール園」に招待をしていただきました。長時間のバス移動の疲れも見せず、親子ともに北海道名物のジンギスカンを堪能しました。

土曜日には、日本YOGA連盟から恵庭「余湖農園」でのトマト収穫体験や手作りピザ、バーベキューなど、暖かいおもてなしを受け、太陽の下でたくさん遊びました。

日曜日には、「動物園」「札幌ドーム野球観戦」「まんが博」の3つのグループに分かれ、一日、思う存分楽しみました。

その他にも、保護者の方も交えて、公園で鉄棒やブランコなど遊具で遊んだり、水鉄砲を掛け合ったり、花火をしたり、ボランティアの大学生や高校性や大人の方達と、おもいきり自由にのびのびと過ごすことができました。

私たちの保養では、子どもだけでなく、保護者も含め希望者は、甲状腺の診察を受けることができます。これも札幌での大切なプログラムです。多くの方が参加して、検診を受けました。

最後の日には、南区の八剣山果樹園で乗馬や木工工作や釣りなどをして、昼食をいただきました。そして、新千歳空港でおみやげをたくさん買い、苫小

牧からフェリーに乗って帰路に着きました。

このように書くと、一見、普通の旅行のように思えてしまいます。しかし、その活動の一つ一つが、子ども達、そして、保護者の皆さんにとっては、放射能を心配せずに過ごせるとてもとても貴重な時間なのです。

これからも微力ですが、放射能からの防御のために、一組でも多くの方が参加できるように力を尽くしたいと思います。

理事 桜井寿人

また来ます

福島子どもたちを守る会・北海道の皆さまお元気ですか? 夏の保養では大変お世話になり、ありがとうございました。

また放射能を気にしなければならない毎日でもピリピリしてしまう自分があります。

北海道で過ごした時間は、私たち親子にとってもとても貴重な時間でした。私は普段なかなか子どもたちと過ごす時間が取れないので、子どもたちとじっくり向き合う事ができました。沢山撮った写真を見ると、子どもたちも私も最高の笑顔をしていました。スタッフの皆さんの、ようこそ!! という気持ちや、私たちを心配してくださる気持ちが沢山沢山伝わってきて、本当に嬉しかったです。「北海道のみんなは何でこんなにやさしいの?」と、娘が言っていた程です。本当にありがとうございました。

福島では、放射能の話はタブーになってきている感覚があり、色々な場面で疑問や憤りを感じる事がありました。強い気持ちで子どもたちを守ってこうと、思う事が出来ました。守る会の皆さんには感謝の気持ちで一杯です。またお会い出来る日を楽しみにしています。

夏保養参加者 Y.Kさん

